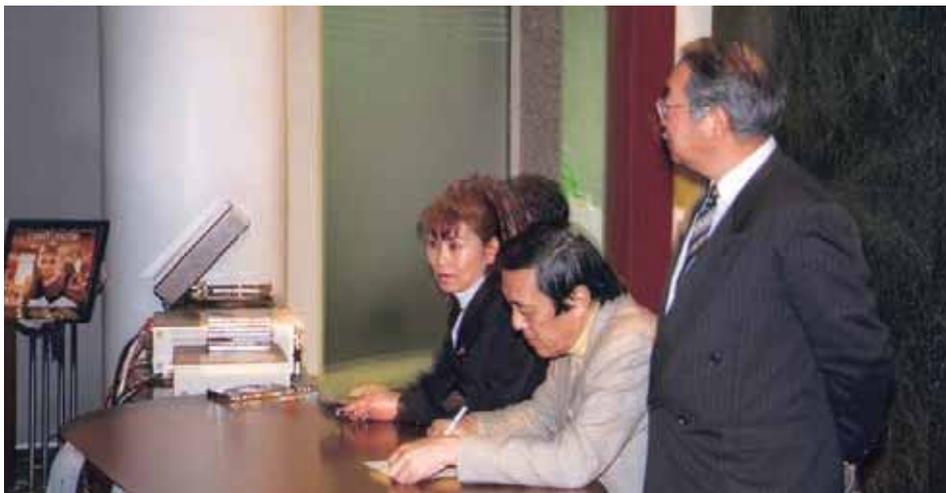


# 平成14年 第95回～第99回

第95回「祝2002年ニューイヤーコンサート」もう9年もこのコンサートでニューイヤーを迎えられている名解説者、高和元彦さん、9年前の初出演の時とちっとも変わりません。



第96年「懐かしの映画、スクリーンミュージック特集」いまをときめく売れっ子のパーソナリテイ襟川クロさんのはぎれのよい、わかりやすい解説に全員が拍手。

第97回「馬をテーマとしたラテン名曲集」20年以上続いているNHK・FMの人気番組にご出演中の竹村淳さんによるすばらしいラテンコンサートにお客様もうっとり。

第98回「クラシックギター演奏会」生ギターのソロ演奏や、フルートとギターのデュオ演奏など熱演の田中桂子さん（左）上谷直子さん（右）



第99回 なんと、沖縄からこの催しのためにわざわざ上京して下さったゲストの与世山澄子さん。小三治師匠が、いま最も尊敬するジャズボーカリストだ。



第99回 「小三治のジャズオーディオ人生」5年ぶりに登場した小三治師匠の滋味あふれたオーディオ談議に時を忘れる。手にされているのは珍しい落語のダイレクトカット盤。

東京新聞のホームページ  
<http://www.tokyo-np.co.jp/>

五月に名古屋、七月に博多、しかしCDやMD（ミニディスク）に出演する、その中でも、レコード盤のシャワーでヒキズ教授が在流り傾イシャワーという雑音にもさしてライサに、音声を教える通 難題を感じることはない、面があり、当時最新だった 聞くためのプレーヤもなくエンジン音の録音機が使わ なくなったので、音質は残るが、れる。音が記録されるのは、いつか捨てなくてはならない編（まろ）でできた雑音と呼 思っていた。

それが先日、昔僕を志 ばれる丸い筒である。それが先日は、昔僕を志 になったのだが、78回転のS、現在オルトフォンという Pから33回転のLP盤ま レコード社長の社長をして で、我が家にもかなり残って おられ、ナリティのレコ

**海畑賢吉の でしたる日記**

**アナログの素晴らしさ実感**

ードコンサートへお誘いを受れ、この十年でアナログは衰 けた。しかし正直言ってこの 星の進歩を待たない。 デジタルの時代に、レコード 私も毎日、持参のレコード を聴きにわざわざ人が集まる でコンサートを開かせて頂 こと自体、単なるノスタルジ ー、二人だけにいい音がして ーとしか思えなかったし、も たのか、懐かしいレコード ちるん期待もなかった。 を捨ててなくて良かった！」 と、どこか聞こえてきた音は と、つづつと続いた。いつか 余りに素晴らしい、レコード デジタルがその音を取るか で、アナログで、どうして もれないが、どりあえアナ ンな音が出るのかとびっくり ナログ健在にホッとしてしま してしまった。愛蔵やヒトの ったのだ。

声が本来持っている倍音まで、 それは多く、私が僕僕とい もがはっきり分離され、しか ら、様々な人生の深い心の奥 も奥深い響きで聞こえるの の（ひだ）か、その機微を拾 だ。 い上げて表現する、いわばア ナログそのものの仕事をし て いるせいかもしれない。（はまはた・けんきち「俳 拾い上げる針がやっとなんさ 響 頭ずも」